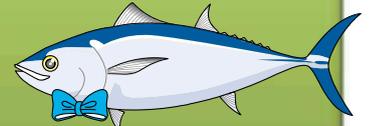
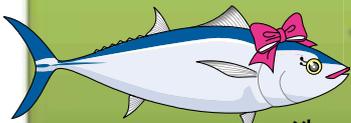


マグロ版「松阪牛」を愛南町で作るために

—マグロ人工授精の研究—

松原孝博・田中真誠(南水研)

・玄 浩一郎・二階堂 英城・澤口小有美・持田和彦(水産総合研究センター)



世界のクロマグロ資源は低い水準にあり、養殖による生産を安定させて天然魚を守る方策が進められようとしています。しかし、そのための種苗(ヨコワ)は人間の手により作られたものでなくてはなりません。将来的には、成長や食味が良く、病気にかかりにくいクロマグロを**育種**していくことが求められており、1:1で交配するための人工授精の研究を進めています。

牛に例えると『松阪牛』のようなブランドマグロの作出です。それらの種苗を愛南町で作って、養殖によって美味しく育てるのがゴールです。

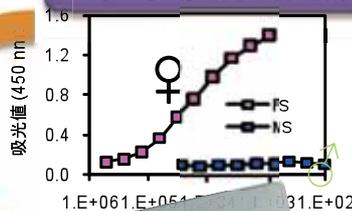
麻酔技術の開発



不動化:
マグロは泳いでいないと呼吸ができないため、雌雄判別、ホルモン投与の作業時間は麻酔後10分程度

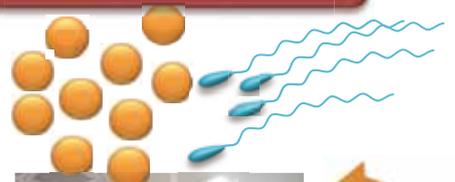


雌雄判別技術



イムノクロマト:
インフルエンザの診断や妊娠検査に利用される。数分で雌雄判別可能

人工授精技術



ホルモンによる 排卵誘発技術



6歳で200kg、2m30cmに育った**優良クロマグロ**



優良精子の 凍結保存技術